僕、チョコ(君)依存性。

CHOCOCO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
僕、チョコ（君）依存性。

【Ｎコード】
Ｎ０１７７Ｙ

【作者名】
ＣＨＯＣＯＣＯ

【あらすじ】
人間嫌い、人間不信、チョコ依存性な藍澤　蒼。
高校１年になり新しいクラスで“爽やかくん”に出逢う。
最初のうちは嫌いで嫌いでしょうがないのに、一緒の時間を過ごす度に、少しずつ好意を抱いていく。
人間不信を直したいと、自分自身と向き合い、本当の自分を取り戻そうとする、高校生ストーリー。

爽やかくんと僕。（前書き）

初投稿です！！初めましてっ！！ＣＨＯＣＯＣＯです！！
まだまだ未熟ですが、読んで頂けると嬉しいですｍ（＿＿）ｍ

爽やかくんと僕。

僕は、藍澤蒼(あいざわそら)です。
今日は高校(ここ)の入学式らしい。
そんな事は知っていますが、屋上で音楽を聴きながら板チョコを食べてます。
はい。僕は新入生です。
人がいっぱい居るところが大嫌いなので、屋上でのんびりしてます。
あ。僕は女ですよ??女!!
まぁ、所謂“僕っ娘”ってヤツで、チョコ依存性。
髪の毛の色だってチョコ色。
…関係ないけどっ。
いつもチョコと一緒。
中学時代、あだ名は“チョコちゃん”
多分、高校(ここ)でもそうなんじゃないかな…。
そろそろ、入学式も終わりだろうなぁ…。
いい加減戻らないと…。
怒られちゃうね。

真っ黒な革のリュックを背負って、屋上を後にした。
「1―B…、あった。」
皆礼儀正しいなぁ…。
ちゃんと座ってる。
先生まだ来てないのかっ!!ラッキー♪
ガラガラッとドアをスライドさせて教室に入る。
うわっ…何…!?
めちゃくちゃ痛々しい視線。
怖い怖い……。
「えっと…僕の席は…」

とりあえずお構い無しに僕の席を探す。
「藍澤さんかな？席、ここだよ。」
顔立ちの整い過ぎてる爽やか男子に僕の席を教えてもらった。
「どーも。」
軽く挨拶してから席に座った。男苦手…つーか、嫌い。
女も嫌い。
人間嫌いなんです。僕。
それからずっとココアが飲みたい、なんて思ってると爽やかくんが話しかけてきた。
「藍澤さん。僕、一ノ瀬拓馬（いちのせたくま）っていうんだ。よろしく！」とびっきりのフルスマイルで自己紹介をしてくる爽やかくん。
「藍澤です。よろしく。」めちゃくちゃ真顔で自己紹介する僕。
人と関わりたくないんだよね。
出来れば話しかけないで欲しいくらい。
「下の名前を聞きたいんだけど。」
「あぁ。蒼。」
「そら？蒼ちゃんっていうんだ！可愛いね！」
「ははっ…どーも。」
めんどくさっ…早く家に帰りたい。
気分が悪くなってきました……。
今日はＨＲで終わりって聞いたから、すぐに帰れるはずなんだけど…。
イライラしてきた時に、やっと先生が入って来た。
「いやー…すまんすまんっ！！打ち合わせが長くて困ったよー…はっはっは。」
笑ってないでさっさと終わらせてくれ先生。
「おぉっと…自己紹介忘れてたな…俺は、杉原浩一（すぎはらこういち）。１年間お前らと仲良くさせてもらうぞー♪はっはっは。」パチパチと拍手が聞こえてきた。

とりあえず僕も拍手をしておく。
「今日は、ＨＲで終わりだ。とりあえず先生の自己紹介だけな～。明日はお前らにも自己紹介してもらうからなっ。」
クラス中がざわつき始めた。
めんどくさいとか恥ずかしいだとか。
分かる。僕もめんどくさい！！
「そんなに嫌がんなよ～、１年間この仲間でやって行くんだぜ？お互いの事知っとかねぇと意味ねぇだろって！！」
「先生の自己紹介だけで充分っすよ！！」
１人の男子生徒がわざとらしく言った。
「お前ふざけんなよ！！俺だけ自己紹介させるとか、俺超可哀想だわ。」
皆は楽しそうに笑う。
つまんないのに良く笑うなぁ……。
意味がわかんない。
「まぁ。ともかく、明日楽しみにしてろって！！分かったな？はい。かいさーんっ！！」
それと同時に鐘がなった。やっと終わった…長かった。
チョコ食べたい…チョコ、チョコ……。
僕は荷物を持って一番最初に教室を出た。
リュックから板チョコを取り出して、銀紙を剥いて一口。
「やっぱり美味しっ…」
板チョコを頬張りながら昇降口へ向かう。
誰も騒いでいない。
静かだ。
「１人って良いなぁ…」
僕は常に１人を好む。
お母さんやお父さんには孤独過ぎるって言われて心配されてる。
お母さんやお父さんが居るから寂しくないし、チョコもあるから今のままで満足。

今日はお母さんがお祝いしてくれるって言ってたし。寄り道しないで早く帰ろーっと。

誰も居ない廊下を1人で歩いていられたのは、ほんの数分間だけだった。

「藍澤さーんっ！！」

「は？？」

後ろから息を切らして走って来たのは爽やかくんだった。

「ねぇ、藍澤さん！一緒に帰らない！？」

「は？？」

いきなり何なの爽やかくん。

僕、1人が良いんだけど。「なんで？？」

「藍澤さん、綺麗だし可愛いから、変質者に狙われたらヤバいと思ってさ！！」

「は？？」

おいおい。

知り合ってまだ、間もないよ？？数分前だよ！？

なんで馴れ馴れしく話しかけてくんのかな……。

「それと…藍澤さんと仲良くしたいから！！」

「は？？」

“は？？”ばっかり……」

一番聞きたくない言葉を聞いた。

何が“仲良くしたい”だ。くだらない。くだらないよ。

「僕は爽やかくんと仲良くするつもりない。」

「僕！？爽やかくん！？え！？」はぁ…めんどくさい男子に出逢っちゃったなぁ…。

そんなに目を丸くしちゃって…驚き過ぎだし。

「うん。そういう訳だから。」

とスタスタ歩いて、爽やかくんとの距離を拡げる。

「藍澤さんっ！！」
爽やかくんが僕の名前を呼んだ。
うるさい。迷惑だ。
黙ってほしいな……ったく。
「何。」
爽やかくんはにっこり微笑んで。
「また明日ねっ！！」
ぶんぶん手を振った。
馬鹿馬鹿しくて、その場を後にした。

……変な奴…っ。

あーっ！もう！コンビニに寄って、ココアとチョコ買って帰ろっ！！
色々ありすぎて疲れた。
うん。スッゴい疲れた。
『～♪～♪～♪』
聞きなれた着信音。
お母さんからだ……。
「もしもし。」
『あ。蒼！！チョコとココア買わなくて良いわよ！！』
「え。」
今から買おうとしてたとこだったのに…。
『蒼、今買おうとしてるんじゃないの？？』
親子ってすげっ…。
分かってたとか。
お母さんスゴいよ……。
「あ。うん。まぁね。」
『買ってあるから、真っ直ぐ帰って来なさいね♪』
「分かった。それじゃ。」『待ってるわよ～♪うふ♪』

「はいはい（苦笑）」
相変わらずお母さんって面白いなぁ……。
今日はお祝い…か。
早く家に帰ろうっと。

それにしてもあの爽やかくん……。
『仲良くしたいから。』
ふざけんなってーの。
僕は誰とも仲良くなんてしない……。
自分の事だけを考えて。
周りの友達は一緒に居れればいい、ただのお飾りな訳。
だから……裏切る。
『裏切らない』
『信じて』
偽善者たちがいう言葉はみんな綺麗事ばかり。
奴等の心は汚れていた。
僕も、裏切られた。
たった1人。心から信じていた親友に。

何故か悔しくなった。
『あんな奴を信じていた。自分だって悪いんだ。』
そうやって自分を責めながら悔やんできた。
「馬鹿馬鹿しっ……」
裏切られれば、悪いのは自分だ。
あんな思いはもう…したくないんだ。

色々考えていたら、いつの間にか、家に着いていた。僕が唯一信じられる“家族”。
ずっとずっと支えてくれた、僕の大事な家族。
「蒼姉ちゃんっ！！」

後ろから、僕の3つ下の弟、勇斗が声を掛けてきた。「あぁ、勇斗。お帰り。」
「うん！！ただいま！！姉ちゃん早く中に入ろうっ！！」
勇斗が僕の手を引いて、家の中に入っていった。
……あたたかい。
勇斗の手の温もりが、僕の心をあたためる。
「姉ちゃん??靴、脱がないの??」
「あ、うん。」
急いで靴を脱いで、リビングへ向かった。
「ただいま～。」
「蒼！！勇！！お帰り～！！」
「二人とも、お帰り。」
お母さんとお父さんに出迎えられ、僕は嬉しくなった。

それから、皆でテーブルを囲み、楽しく話をした。
「蒼、新しいクラスはどうなの??」
新しいクラスか……。
「皆が真面目で困る。」
「困る必要ないわよ！！」
テンション高いなぁお母さん。
お父さんは冷静だよ。
お母さん…見習って（苦笑）「美樹…うるさいよ。」
「あら、やだっ♪お父さんったらカッコいいわ♪」
「「……。」」

この二人には着いていけないよ……。
いちゃいちゃしないで…。

その後もずっと、お母さんとお父さんはいちゃいちゃ（??）して、

僕と勇斗は黙って食事を楽しんだ。

疲れきった僕は、ベッドに横たわって、いつの間にか眠ってしまっていた。

爽やかくんと僕。（後書き）

読んでくださいまして、ありがとうございます！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0177y/

僕、チョコ(君)依存性。

2011年10月29日14時09分発行